

学会記事

2008年度 第1回理事会 議事録

2008年6月20日
日本地質学会
会長 宮下純夫

期日：2008年6月14日(土)

13:00~16:00

場所：地質学会事務局

出席者：宮下会長、佃副会長、高木副会長、
渡部常務理事・藤本副常務理事・井龍・岩
森・上砂・倉本・斎藤・坂口・久田・向
山・藤林(各理事)、橋辺(事務局)

欠席者：小嶋・矢島・石渡

*成立員数(12/17)に対し、出席者 14名、
委任状 3名、欠席者 0名で、理事会は
成立。

報告

1. 運営財政部会(部会長-上砂, 向山, 倉
本, 坂口)

総務委員会(委員長-上砂)

・尾瀬保護財団より第12回尾瀬賞の公募あ
り(応募期間4/1-10/31): news誌, HP
に掲載

・21世紀の地学教育を考える大阪フォーラ
ム実行委員会より「第9回子供のための
ジオカーニバル」の後援依頼があり例年
通り承諾した。

・地盤工学会会長交代挨拶: 新会長 浅岡
顕

・土木学会会長交代挨拶: 新会長 栢原英
郎

・韓国のIYPE委員会よりIYPE日本委員会
にたいし、韓国の科学フェスティバル
(7月31日~8月4日)に日本の学生の
招待があった。地質学会からも推薦する
よう要請があり、代議員等のメールを通
じて全国的に推薦を呼びかけた。その結
果、高木副会長(引率者としても要請あ
り)からの推薦をはじめ、国内から地球
科学関連の学生が合計5名推薦された。
高木副会長の引率はIYPE日本委員会か
らの要請である事を確認した。

・学術会議に対し、文部科学省(高等教育局)
から「大学教育の分野別質保障のあり
方に関する審議について(依頼)」の
文書が送付された。中教審は学士課程教
育に関する審議の取りまとめにおいて、
将来の分野別評価の実施を視野に入れ、
各分野の到達目標の設定、コア・カリ
キュラムやモデル教材の開発促進等につ
いて提言を行っている。学協会におい
ても主体的な取り組みの促進が求めら
れている。普及教育部会で検討。連合を通じ

て議論が始まるかもしれない

・地理学会より国際地理オリンピックへの
支援依頼(寄付金募集)→回覧

会員関係(担当理事-向山)

1) 入会者 20件(賛助1, 正17〔うち院
10〕, 準2)

(賛助1) 興亜開発株

(正7) Humblet Marc Andre 鈴木和博
田中正利 橋目敏行 小野寺秀和 品川道
夫 林 為人

(院10) 濱田洋平 和気夏彦 伊藤 剛
松澤 希 石橋正祐紀 井元 恒 菅原久
誠 安田知佳 山口真理子 薬師寺亜衣
(準2) 宮坂 綾 滝本春南

2) 退会者(正4名)

松本啓作 山本俊雄 須甲武志 鳥口能誠
3) 逝去者(正1名)

村山正郎(2008/6/4逝去)

4) 5月末日会員数

賛助32, 名譽80, 正4,239(うち院168),
準21, 合計4,372(前年同期比-93)

5) 会員からのアクセスによる個人情報の
登録, 修正ができる準備が概ね整い, 試
験運用の後, 会員公開をしたい, 準備中。
ウェブ上の変更は定期的に事務局が基本
のDBを更新する。

広報委員会(担当理事-倉本=情報特任・
坂口)

・インターネット運営小委員会

会員からのアクセスによる個人情報の登
録, 修正ができる準備が概ね整い, 試験
運用の後会員公開をしたい, 準備中。
ウェブ上の変更は定期的に事務局が基本
のDBを更新する。メルマガ等は順調に
進行。地質の日のイベントの報告を地質
ニュースと連携をとりつつ行う。公益法
人化との関連で, ニュース誌の公開など
を検討したらどうか

2. 学術研究部会(部会長-石渡)

行事委員会(担当理事・委員長-斎藤)

・秋田大会について

秋田県教育委員会および秋田市教育委員
会に対し秋田大会の後援を依頼した。県
および市からは承諾の返答あり。

見学旅行案内書の印刷について, 担当の
大友会員より見積り額は昨年の札幌大会
並みに押さえるよう交渉の結果, 山形の
印刷所に発注。

・7月12日(土), プログラム編成のため
の行事委員会を開催予定。

・予定されている日韓のシンポと韓国地質
学会会長の招待日程を調整

・秋田大会において, 鉱物学会との共同
で科研費申請者に対する技術的説明会を

行う。

専門部会連絡委員会(担当理事-藤本)

今後会員情報の登録修正同様, ウェブ上
での部会登録が可能になるので会員にはこ
の事を周知し, 登録の結果は各部会に通
知する。

国際交流委員会(担当理事-石渡=国際特
任理事)

・日韓交流小委員会(高木委員長): 韓国
地質学会会長を秋田大会に招待する件に
ついて

2泊3日の日程, 交通費・宿泊費の費用
的負担は, 地質学会が負う。

予算: 10万円程度 秋田往復(直行便あ
り) 航空運賃+2泊宿泊費

・日タイ交流委員会(上野委員長): 発足
の報告, 今後予想される活動については
国際会議, シンポジウム等の情報宣伝,
日タイの共同研究に関する情報収集と発
信, 年会等でのタイおよび周辺地域に関
するセッションの主催などがあげられ
る。

・地球惑星連合国際委員会報告
AOGS2010が日本で開催されるかどうか
は6月18日に決定

3. 編集出版部会(部会長-久田, 小嶋, 岩
森, 井龍)

地質学雑誌編集委員会(委員長-久田 副
委員長-小嶋, 岩森=企画担当)

今月の編集状況(6月12日現在)。

114-6月号: 論説3 短報1(51頁予定。
校正中)

114-7月号: 論説3 ノート1 討論2
口絵1(入稿準備中)

2008年度度投稿論文総数60編[論説41
(和文39 欧文2), 総説10(和文10) 短
報3, 討論2 報告3 ノート1]口絵
1

投稿数昨年比 +24 査読中63編 受理
済み5編(うち 論説5

・特集号の状況

下記5件の特集号が査読・投稿中

「最終氷期の環境変動-日本列島陸域
と周辺海域の統合を目指して-」(世話
人 公文富士夫ほか)

「プレート沈み込み帯と地震」(世話
人 廣野哲朗ほか)

「日本海沿岸褶曲・断層帯の形成・成長
と地震活動」(世話人 高木秀雄ほか)

「陥没カルデラ(I): 構造とマグマ」
(世話人 三浦大助)

「モデル実験で探る地形・地層形成過程
のダイナミクス」(世話人 横川美和ほか)

投稿中

・オーバーページが予想されるので、

オープンファイルなどの利用も検討
・編集委員強化(新生代火山活動の専門)
→編集委員会で決定後報告

企画部会報告(岩森)

地質学雑誌のISIデータベースへの登録申請について

- ・引用文献リストの英文化が望ましいとされている。申請して必要ならば変更申請の原案を編集委員会で作成
- ・英文要旨のネイティブチェック義務化は編集委員会で検討すべき
- ・地質学雑誌での、「調査報告」のカテゴリ化について
検討事項としては、既存の「報告」との切り分け、「調査報告」の主用途、ニュース誌への掲載の可能性等について
- ・地学の教員が書けるような形を整える編集委員会で規約を検討 地学教育委員会と協議
- ・地質学会の投稿が学会員に限られていることについて、公益法人化との関係で今後の検討課題となるのではないか。

Island arc編集委員会(担当理事-井龍, 事務局長-竹内圭史・角替敏昭)

1) 編集状況

順調に進行, 特集が多いがインパクトファクター向上も考慮してなるべく受け入れる方向で検討

2) Blackwellの電子投稿システム(Manuscript Central)に不具合が発生しており, 編集に若干の遅れが生じている。

3) WILEY-BLACKWELL誕生に伴い, 2009年1月より新 ジャーナルプラットフォームが設定される。その準備として, BLACKWELL ジャーナルサイト Synergyに収録されているジャーナルのプラットフォームが, 2008年7月より Wiley InterScienceに移行される。移行作業中(6月28日~30日)には, SynergyとInterScienceへのアクセスが一時的に中断される可能性もある。

4) Wiley-Blackwellとの契約内容の変更を行っている(この件は, 前編集委員長のSimon Wallis氏が担当する)。オンラインアクセスの契約数に関して, 交渉すべき点がある。

Island arc連絡調整委員会(委員長-会田, 担当理事-井龍)

- ・先月理事会の検討を受けて, 会田委員長からも同意が得られ, 本委員会は本日の理事会をもって解散することが了承された。

企画出版委員会(担当理事-藤林)

・地方地質誌(加藤委員長, 朝倉書店)の編集・出版状況は「関東地方」が秋田大

会を目指して出版される見込み, 「近畿地方」は年末を目指している。秋田で出版推進のための委員会を開催予定。

・リーフレットたんけんシリーズ「屋久島」(安間, 矢島, 藤本ほか)は現在原稿作成中, 秋田大会前の完成を目指して努力。

- 4. 普及教育事業部会(部会長-矢島, 藤林) 国際地学オリンピック日本委員会(久田)
 - ・5月31日の第二次選抜試験を経て, 最優秀賞4名(フィリピンへの派遣代表), 優秀賞2名(同 補欠)を選出。(資料参照p.6)
 - ・地質学会推薦の小泉邦彦会員(柏高校)が運営委員に就任
 - ・今後, 地学オリンピックに関しては, 地質学会のHP, ニュース誌でも取り上げ, 紹介してゆきたい

5. その他

支部長連絡会議(担当理事-高木)
支部長連絡会議を招集予定(法人化の具体的説明と協力要請)

地質災害委員会(担当理事-藤本)
ミャンマーと中国四川の自然災害への対応についてメールにて検討。

JABEE委員会(委員長-天野)
今年度の審査作業が開始された。

技術者継続教育委員会(PDE)(委員長-公文)

ジオパーク支援委員会(担当理事-佃, 天野委員長)

委員より意見を聴取中。近々それらをまとめた上で委員会開催予定。

・日本ジオパーク委員会(高木委員)
世界ジオパークネットワーク申請候補(7月1日締切)および日本ジオパーク(8月29日締切)の募集を6月12日づけで開始。くわしくは日本ジオパーク委員会HP <http://www.gsj.jp/jgc/indexJ.html>を参照されたい。

日本ジオパークは立候補した地域は基本的に認められる方向で検討。

世界ジオパークは日本から3-4件程度を推薦予定

就職支援ワーキンググループ(伊藤委員長)

・ニュース誌に関連職業の先輩による紹介記事掲載の準備中。

・秋田での就職支援プログラムの準備

法人化作業委員会(担当理事・委員長 渡部)

・斎藤法人化実行委員長の了承を得て, 正式に作業委員会を発足し, 第1回委員会を6/14に開催。

以下の二つの作業を並行して行う

9月の評議員会に定款案と事業計画案などを提示し, 了解を得ることを目標

12月1日に届け出を行う予定。(内閣府に登録),

11月29日臨時総会にて承認の上で解散,

直後に法人登記を行い, 引き続き設立総会を行う予定そのために以下の二つの作業を並行して行う

1. 現在の事業計画や予算計画を整理し, 公益性が認められるような事業計画の作成と予算計画の策定: 担当 藤本, 向山, 倉本, 天野, 会計士, 弁護士, 司法書士
2. 定款などの届け出資料の作成。
定款, 運営細則, 選挙などの整備: 担当 渡部, 上砂, 坂口, 橋辺

7. 地質の日委員会(藤林委員)

・産総研「地質ニュース」の2009年1月号で今年度の地質の日の行事の記録を特集する。

○四川大地震, ミャンマーサイクロンへの学会の対応

- ・中国地質学会に対し見舞い状を送付し, 中国地質学会より答礼があった。
- ・理事会は5月25日の総会に「アジアで発生した大規模自然災害に関する緊急声明」を提案し採択された。
- ・上記について, 5月26日に文部科学省の記者クラブを通じ, プレスリリースを行った。

○審議事項

1. 地球惑星科学連合の法人化について(宮下会長)
先の連合評議員会で連合の法人化が決定した。

個人加盟制により小規模学会を中心に危機感が強く, 評議会ではそのような意見も多く出されたことが宮下会長より報告された。

地学教育関係者のセクションはどこのか, 登録は適宜行い, 地学教育の常置委員会で活動してゆくことができる。

セクションの切り口は地質学会が分断される方向ではないか? などの意見が出された。連合と地質学会のミッションの関係は, 特に今後学会の法人化に際し, 公益目的事業ということでは, 連合との間で競合, 重複する部分が多くあることが伺える。

なお, 同, 法人化準備委員会への委員推薦依頼にたいし, 高木副会長を登録

2. 韓国地質学会会長への招待状, 公式行事の内容, 接待等について

初日の顕彰式で盾をプレゼント, 懇親会招待

日韓シンボでは(二日目の午前)学術的スピーチを行っていただく, 世話人に了解済み。二日目に会長陣で昼食会またはディナーにご招待, スケジュールも含めた招待状は高木副会長から発送

3. ニュース誌およびインターネット運営小委員会の機能的組織編成について(坂口理事)

坂口理事より趣旨説明があり、委員会として新しい委員選出を行い、理事会に承認を得ることとした

4. その他

- 1) 「日本地質学会表彰」の英文(会員からの問い合わせに答えるために)

The Geological Society of Japan
Honorable Recognition

合わせて古藤文次郎賞の英文名も以下に修正.

The geological Society of Japan Koto Bunjiro Award

今後、地質学会表彰や功労賞の定義や顕彰対象についても検討することとした.

- 2) 矢島理事からの会員の所蔵文献等に関する提言について検討し、話題となった地質学雑誌寄贈の新聞記事などをニュース誌で紹介する記事を矢島理事に執筆していただくこととした.

2008年度 第2回理事会 議事録

2008年8月10日
日本地質学会
会長 宮下純夫

期日: 2008年7月12日(土)

13:00~16:00

場所: JAMSTEC東京事務所

出席者: 宮下会長, 佃副会長, 高木副会長,
渡部常務理事・藤本副常務理事・石渡・上砂・倉本・小嶋・坂口・久田・向山・矢島
(各理事), 橋辺(事務局)

欠席者: 井龍・岩森・齋藤・藤林

* 成立員数(12/17)に対し, 出席者 13名,
委任状 4名, 欠席者 0名で理事会は成立.

報告

1. 運営財政部会(部会長-上砂, 向山, 倉本, 坂口)

総務委員会(委員長-上砂)

<他団体の賞の公募>

- ・朝日新聞文化財団「朝日賞」の公募, 8月29日締め切り→News誌, HPに掲載
- ・沖繩協会「第30回沖繩研究奨励賞」の公募, 9月30日締め切り→News誌, HPに掲載
- ・女性科学者に明るく未来をの会より, 第29回「猿橋賞」の公募, 11月30日締め切り→News誌, HPに掲載
- ・東レ科学振興会「東レ科学技術賞」, 「東レ科学技術研究助成」の公募, 10月10日締め切り→News誌, HPに掲載

・大学婦人協会より, 第11回大学婦人協会
守田科学研究奨励賞の公募, 女性科学者
対象, 12月1日締め切り→HP, News誌
に掲載

<後援・共催等の依頼>

・土壤環境センター・日刊工業新聞社より
「2008土壤地下水環境展」(10月1日~3
日)協賛依頼 →例年通り承諾

・埼玉県理化研究会(会長 大下仁)より
研修会「東京と伊豆大島の見学: 案内者
小幡喜一会員」(8月26日~27日)の後
援依頼 →承諾

<代表者交代挨拶>

- ・日本アイトープ協会 新会長 有馬朗
人
- ・日産科学振興財団 新理事長 高橋忠生
- ・日本原子力学会 新会長 岡 芳明(東
大)
- ・石油技術協会 新会長 太田陽一(石油
資源)
- ・石油資源開発株 社長(継続) 棚橋祐
治

会員関係(担当理事 向山)

- 1) 入会者 76件(正72〔うち院55〕, 準
4)

(正17) 中村千怜 佐々木亮道 林 信
雄 渋谷岳造 熊折教寿 伊藤喜宏 筒
井正明 飯塚 毅 平沢 聡 村上一輝
齋藤拓也 二階堂学 ブランドン キー
リー 鈴木祐恵 朴 テホ 小林まさ代
結城義則

(院割55) 木村祐美子 山根規人 中満
隆博 藤井彩乃 田端祥世 佐藤善輝
加藤欣也 八束 翔 馬場綾佳 古川絢
子 シャプトラ モハメッド 岡本嵩大
本田孝子 伊藤有加 中村英人 佐藤禮
子 山梨太郎 額額佑衣 酒井健志 川
上遼平 春木あゆみ 大森康智 小島
淳 高野聡一郎 猿田一樹 安藤佑介
北村悠子 平松由起子 後燈明あすみ
櫻井謙一 村田和則 中間隆晃 尾形啓
輔 吉崎もと子 尾崎和海 木村健志
清水恒子 増潤佳子 金山恭子 法橋
亮 山本勝也 山下和彦 福山厚子 駒
井大介 川崎慎平 増馬鉄朗 中谷大輔
鈴木芳行 保坂達也 河野光宏 田畑美
幸 塩見大志 小河原孝彦 近藤 梓
諸橋啓介

(準4) 新川喜久 大原達也 川合康平
青木優作

- 2) 退会者(正4名) Yousif Osman
Mohammad Kyaw Soe Win 砂川幸則 大塚
洋之

3) 逝去者(正1名) 山崎達雄(元九大)

4) 6月末日会員数

賛助32, 名誉80, 正4,260(うち院182),
準22, 合計4,394(前年同期比-74)

地球惑星科学連合(久田連絡委員)

○連合法人化準備委員会(高木委員)

・7月4日第1回委員会は開催された。高

木委員から以下のとおり説明
公益法人化を目指して準備作業を進めて
いる.

会員は団体会員と個人会員 団体会費は
無料, 個人会費は1000円程度
原案では, 社員総会では団体会員(47加
盟団体)と個人会員から選出した代議員
(およそ100名)が同じ1票を持つ
運営財政基盤は連合大会の登録費 個人
会員の優遇措置
新しい国際誌発行予定
準備会の中でWGを作り早急に詰める
(高木副会長は出版担当WG)

・理事会では, 個人会員制をとることによ
る各学会への影響への懸念が表明され
た.

次回の準備委員会(8月18日)へ向けて
メールで議論を進める.

会計関係(担当理事-向山)

特になし

広報委員会(担当理事 倉本=情報特認・
坂口)

広報委員の推薦を各専門部会に依頼した.

・ニュース誌編集小委員会

順調に発行

・インターネット運営小委員会

会員修正の可能は来週完成見込み 内部
テストを経て本格運用

2. 学術研究部会(部会長-石渡)

行事委員会(担当理事・委員長-斎藤)

・秋田大会について

7月12日(土), プログラム編成のため
の行事委員会を開催.

・発表申し込み(シンポジウム含む) 550
件

・来年以降の年會開催地

2009年西日本支部 岡山大会, 2010年中
部支部 富山大会

国際交流委員会(担当理事-石渡=国際特
任理事)

・日韓交流小委員会(高木委員長): 韓国
地質学会会長を秋田大会に招待する件に
ついては先方の意向を聞き, 返事待ち,
Island Arc賞は, 韓国の方(呉さん)
なので配慮する. 総会でスピーチの時間
をセットするよう行事委員会へ要請.

・インド地質学会会長からの就任挨拶状

・地球惑星連合国際委員会報告:
AOGS2012を日本招致 結果的にはイ
ンド開催

・WPGMに地質学会代表招待の話が来
る: 適任者がおらずに断る.

3. 編集出版部会(部会長-久田, 小嶋, 岩
森, 井龍)

地質学雑誌編集委員会(委員長-久田 副
委員長-小嶋, 岩森=企画担当)

・今月の編集状況(7月11日現在).

114-7月号：論説4 討論2 口絵1 (約60ページ・校正中)

114-8月号：論説4 ノート1 (入稿準備中)

- ・2008年度投稿論文総数67編 [論説45 (和文43 欧文2), 総説10 (和文10) 短報4 (和文3 欧文1), 討論2 報告3 ノート3] 口絵3 (和文2 欧文1)
- ・投稿数昨年比 +24 査読中71編 受理済み2編 (うち 論説2)
- ・投稿規程の中で「報告」の定義に「議論等を含まない」とする。

この8月12日以降投稿された「報告」原稿から適用したい。

- ・前回の理事会で提案された英文要旨のネイティブチェック, 教育関係の論文の新カテゴリーなども議論中。

企画部会報告 (岩森)

- ・下記の1件が投稿中となった。
「陥没カルデラ (II): 噴火プロセス・テクニクスと長期予測」(世話人三浦大助)

Island arc編集委員会 (担当理事-井龍, 事務局長-竹内圭史・角替敬昭)

- ・編集は順調, HPがWiley Interscienceに統合 現時点では一部でサービス低下の面もあるので要検討, IPは0.837と少し上昇, 投稿数減少傾向が懸念される。

企画出版委員会 (担当理事-藤林)

国立公園シリーズの屋久島リーフレット企画は順調に進行中

4. 普及教育事業部会 (部会長-矢鳥, 藤林)

地学教育委員会 (委員長-阿部国広)
地球惑星科学連合「教育問題検討委員会」(矢鳥)

国際地学オリンピック日本委員会 (久田)
科学オリンピックとして認められ, JSTでの予算化決まる (1,100万円)。

実施主体のNPO法人化を急いでいる。

5. その他

ジオパーク支援委員会 (担当理事 佃, 委員長 天野)

天野委員長から下記の報告があった。
委員全員に支援委員会の役割についてアンケートを実施した。それらをまとめた上

で, 7月下旬~8月上旬に第1回委員会を開催する予定である。現在ジオパークの候補地になっている地域に対する支援はもちろんであるが, 候補地の掘り起こしを積極的に実施する方策を検討したい。第1回委員会での検討結果は, 秋田大会におけるシンポジウムにおいて討論のテーマとする予定である。

日本ジオパーク委員会 (高木委員)

- ・3地点の推薦を検討 (立候補は4地点)
- ・日本ジオパークに向けては, 15地域が活動中

6. 地質の日委員会 (藤林委員)

- ・7月25日に委員会開催, 出席予定。

○審議事項

1. 公益法人化の際の基本的確認事項

- 1) 理事会事業部会, 評議員会, 各種部会等の組織運営
- 2) 事業計画と係る財務計画
- 3) 役員選挙等

・上記について以下のような議論がされた。

<法人化へ向けてのスケジュール>

9月の評議会で定款案と事業一覧などを提案するよう作業委員会で準備を進める。

<事業計画と財務計画>

・学術大会開催や学会誌発行などは学会活動の柱であるので公益事業の枠にいれる。

・定款は公益目的事業を中心に大枠の提示にとどめる。

<理事会や評議員会の性格>

・新法人で評議員会機能をいかに保持し, 会長選挙に会員全体の意向を反映させるかが主要な課題と認識

・現在の評議会を新法人体制での理事会とし, 現在の理事会は新法人体制では執行理事会として理事会で選出する。理事の選挙にあたっては現在の各階層の代表者の構成をもつことができるよう配慮する。

<選挙>

- ・毎年選挙を行うのではなく, 会長の任期に合わせて2年毎の選挙とする。
- ・来年度は, 法人移行期間として選挙を行わずに今年度役員が引き続き役員を

務める。

- ・会長については全会員による選挙を行い会員の意向を反映させる仕組みを作る。

・選挙の細則などは急いで作成せずに慎重に作業を進める。

・理事と代議員を兼ねることができないために, 2回選挙を実施する必要。

まず, 会長+副会長(3名) 理事(執行理事14名+理事40名)を選ぶ選挙

その結果を受けて全会員による代議員200名を選ぶ選挙

・会長+副会長は会員の選挙結果を尊重して新理事会で決定。役付きの執行理事は, 新理事会で互選?

<定款案等>

・公証人の承認に向けた事前のチェックを早急に専門家にしていただく予定

2. 本年度各賞選考対応について

説明をつけて選考を来週には依頼する。

3. 理事会及び評議員会下の委員会報告と次期計画等について

各種委員会に8月末くらいに出す→事務局より発注

作業WGの事業計画の立案のために各委員会の今後の計画などの把握

4. 会員構成の将来検討結果 (昨年度) のとりまとめと報告について

早めにHPかニュース誌に出すこととし, 担当は会員担当理事

5. 第2回評議員会の議題について

- 1) 新法人事業計画と財務計画
- 2) 新法人組織運営体制について
- 3) 現任意団体の解散と新法人設立総会について

11月30日 (日) 解散集会

at 会場未定

12月1日 (月) 法人届け出

12月13日 (土) 設立総会 (代議員)

懇親会

4) その他

6. その他

1) 広報誌について (広報委員会)

地震学会の「なるふる」のような一般向け広報誌の提案

秋田での評議会により具体的提案ができるよう準備号を作成